

「平成24年度普及に移す成果」

## 業務用に適する水稲新品種候補「ひたち34号」の育成と準奨励品種採用（品種登録出願中）

みんなで進めよう  
茨城農業改革

農業総合センター生物工学研究所  
農業研究所

県内各地での適応性が高く業務用に適する水稲新品種候補「ひたち34号」を育成し、本県の準奨励品種に採用しました。早生熟期のため「コシヒカリ」との作業分散が可能で、大粒で玄米品質に優れ、業務用に適した炊飯特性をもっています。

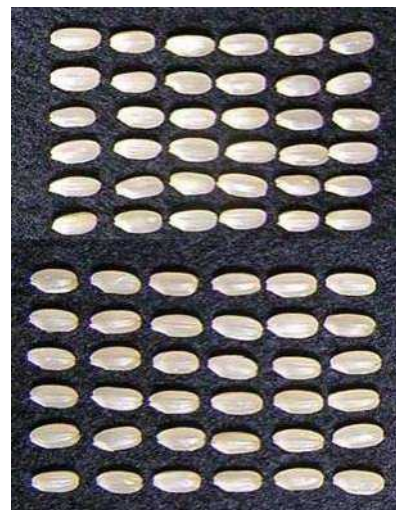
### 品種の特徴

「ひたち34号」は、早生熟期の奨励品種「ひとめぼれ」と比べ以下の特徴があります。

1. 出穂期および成熟期は、1～2日早い。
2. 収量は、ほぼ同等。
3. 大粒で、玄米千粒重（千粒当たりの重さ）は2g程度重い。
4. 玄米の外観品質は、粒揃いが良く、光沢があり、優れる。  
出穂後の高温による玄米品質の低下が少ない。
5. 食味は同等で優れる。

また、炊飯特性は、ふっくらとした炊き上がりで、炊きたてばかりでなく冷飯の食味評価に優れ、業務用として適しています。

中生の「コシヒカリ」よりも成熟期が7～10日早く、収穫作業等の分散が可能です。

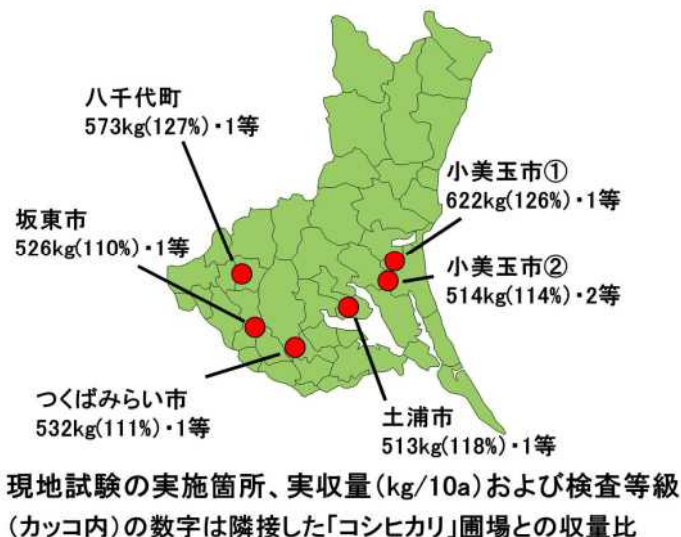


玄米の外観  
上段：ひとめぼれ  
下段：ひたち34号

### 県内での適応性（「コシヒカリ」との比較）

県内6箇所において実用規模で試作したところ、「ひたち34号」は、隣接する「コシヒカリ」より成熟期が7～10日早く、10～27%多収、玄米千粒重は1.6～4.2g重い結果となりました。

検査等級は倒伏した1箇所を除き1等で、生産現場でも早生・大粒・良質の特性が発揮され、収量を確保しやすいことが分かりました。



### 栽培上の留意点

早生熟期のため、カメムシ類の適期防除を行ってください。  
業務用「チヨニシキ」に比べると倒伏に弱いので、多肥にしすぎないように留意してください。  
平成25年度から一般栽培を開始します。